

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100％を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

〔例：問12で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものを《そう思う》と表現している。〕

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

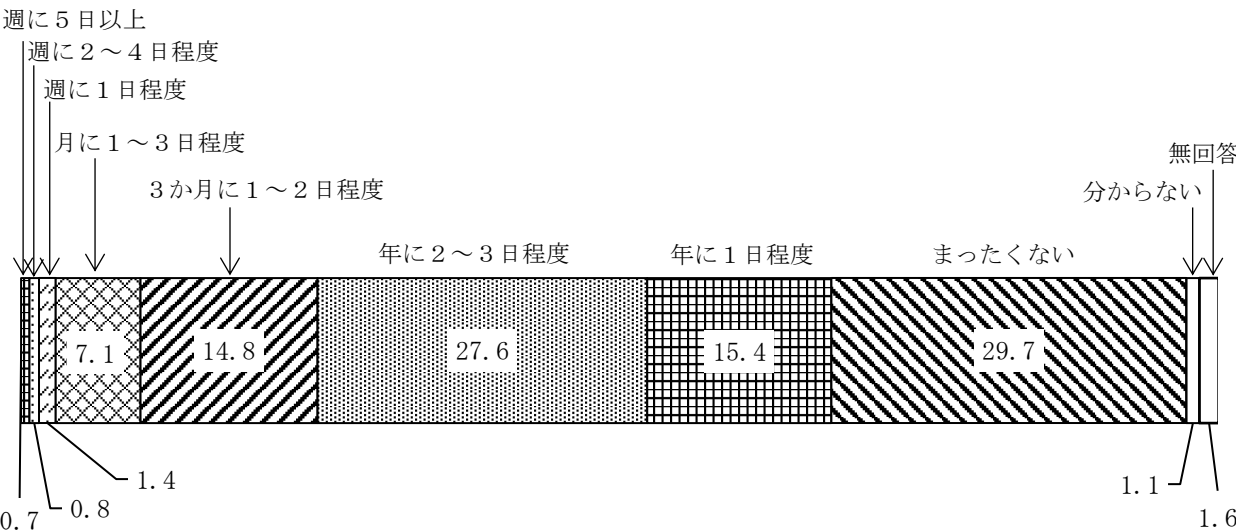
1 かながわの文化芸術（問1～問3）

県では、真にゆとりとうるおいを実感できる心豊かな県民生活と、個性豊かで活力に満ちた地域づくりを実現するため、県民の方に文化芸術に触れる様々な機会を提供し、あらゆる人の文化芸術活動が充実するよう取り組んでいます。今回、1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数などについて調査しました。

▼ 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（問1）

この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数を尋ねたところ、「まったくない」が29.7％で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が27.6％であった。〔図表1〕

図表1 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（n=1,185）（％）



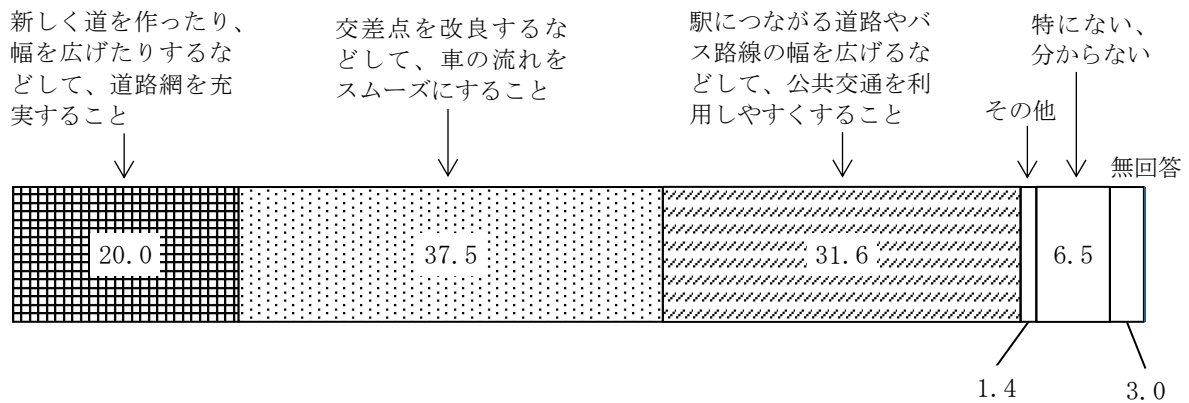
2 かながわの道路（問４～問７）

県では、「かながわのみちづくり計画」に基づき、選択と集中を図りながら、道路事業を推進しています。今回、渋滞なく快適に移動するために、道路事業で特に重要だと思うことなどについて調査しました。

▼渋滞なく快適に移動するために、道路事業で特に重要だと思うこと（問４）

いつでも、どこへも、渋滞なく快適に移動するためには、道路事業において、どのようなことが特に重要だと思うか尋ねたところ、「交差点を改良するなどして、車の流れをスムーズにすること」が 37.5%で最も多く、次いで「駅につながる道路やバス路線の幅を広げるなどして、公共交通を利用しやすくすること」が 31.6%であった。〔図表２〕

図表２ 渋滞なく快適に移動するために、道路事業で特に重要だと思うこと（n=1,185）（%）



3 かながわの人権（問8～問10）

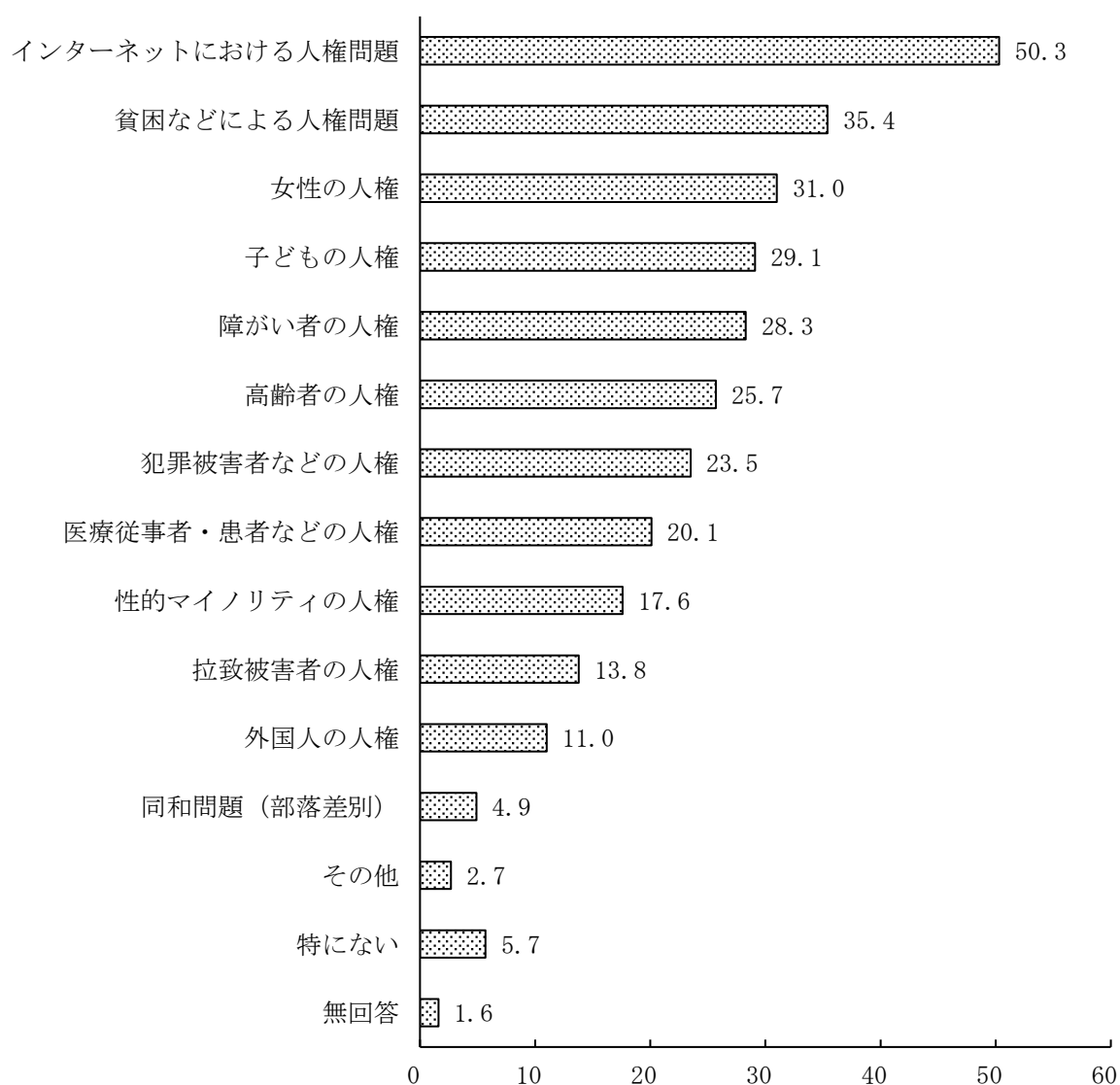
県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問9）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が 50.3%で最も多く、次いで「貧困などによる人権問題」が 35.4%であった。

[図表3]

図表3 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,185）（%）



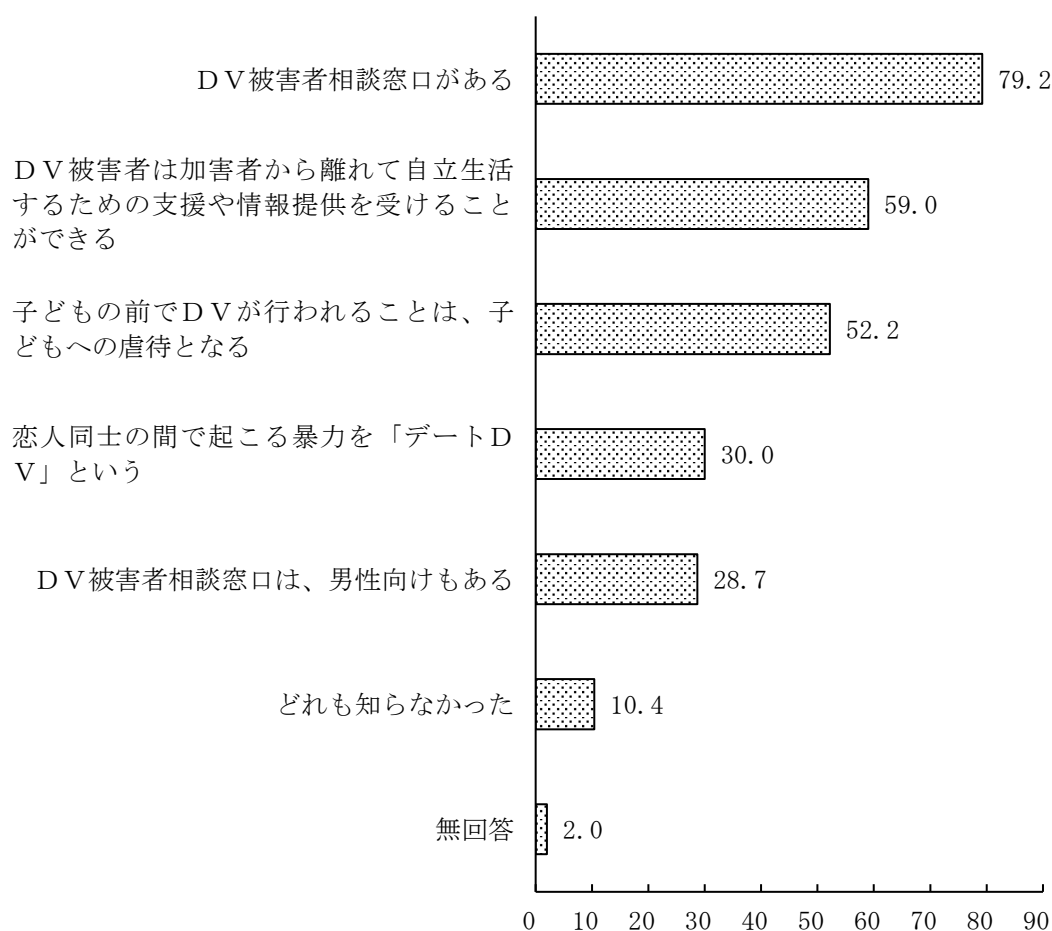
4 配偶者等からの暴力（問 11）

県では、「かながわ困難な問題を抱える女性等支援計画」に基づき、DV被害者への支援の充実や、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解について調査しました。

▼配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（問 11）

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が 79.2%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が 59.0%であった。[図表 4]

図表 4 配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（複数回答）（n=1,185）（%）



5 生活に不安や課題がある人への支援（問 12～問 14）

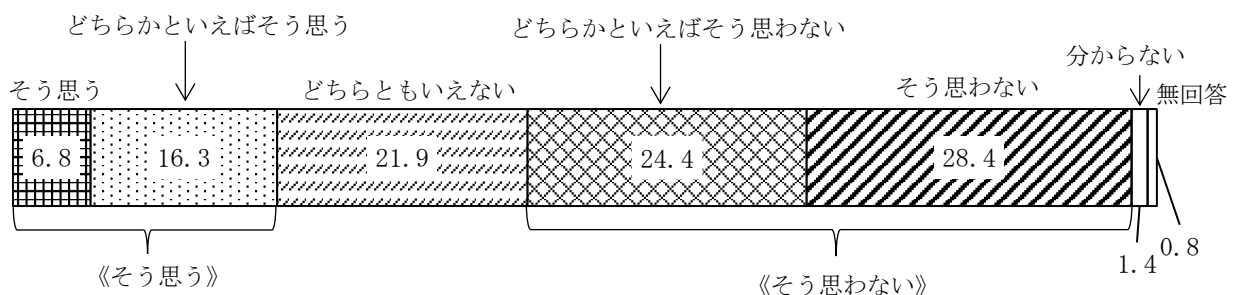
県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問 12）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（6.8%）と「どちらかといえばそう思う」（16.3%）を合わせた《そう思う》は23.0%であった。

一方、「そう思わない」（28.4%）と「どちらかといえばそう思わない」（24.4%）を合わせた《そう思わない》は52.8%であった。〔図表 5〕

図表 5 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（n=1,185）（%）



6 インクルーシブ教育（問15～問17）

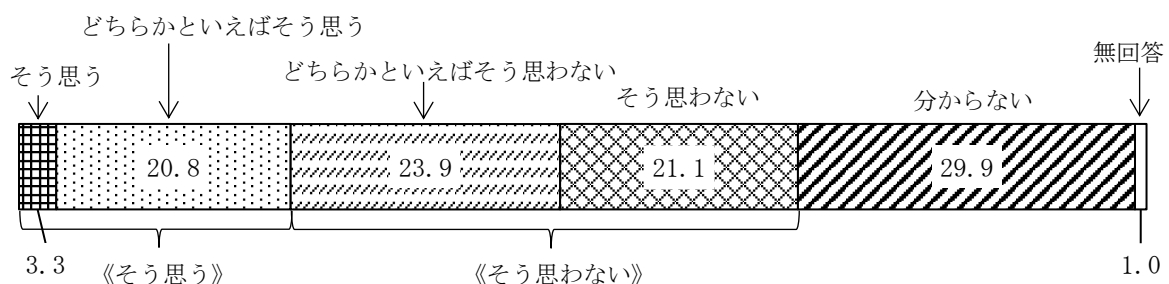
県では、共生社会の実現に向け、すべての子どもが同じ場でともに学びともに育つことを目指して、インクルーシブ教育を推進し、すべての子どもにとって学びやすい学校づくりに取り組んでいます。今回、現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかなどについて調査しました。

▼現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（問 16）

現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（3.3%）と「どちらかといえばそう思う」（20.8%）を合わせた《そう思う》は24.1%であった。

一方、「そう思わない」（21.1%）と「どちらかといえばそう思わない」（23.9%）を合わせた《そう思わない》は45.0%であった。〔図表 6〕

図表 6 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（n=1,185）（%）



7 「未病改善」の取組み（問 18～問 21）

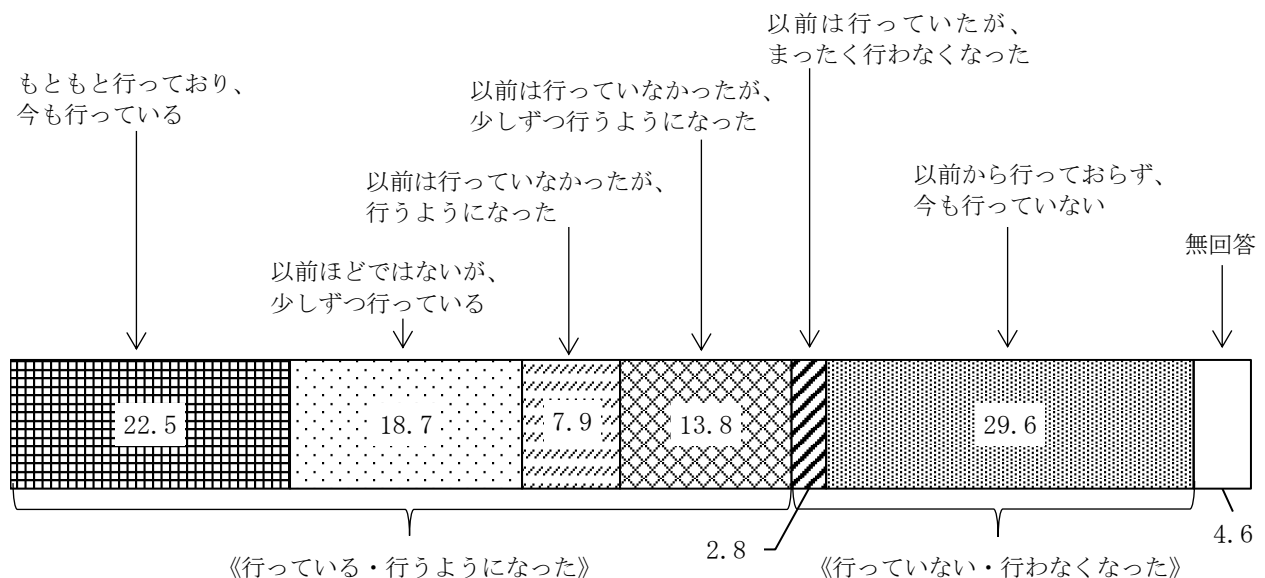
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去1年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

▼過去1年間の「未病改善」の取組状況（問 19）

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」（22.5%）、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」（18.7%）、「以前は行っていなかったが、行うようになった」（7.9%）、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」（13.8%）、を合わせた《行っている・行うようになった》は63.0%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」（29.6%）と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」（2.8%）を合わせた《行っていない・行わなくなった》は32.4%であった。[図表7]

図表7 過去1年間の「未病改善」の取組状況（n=1,185）（%）



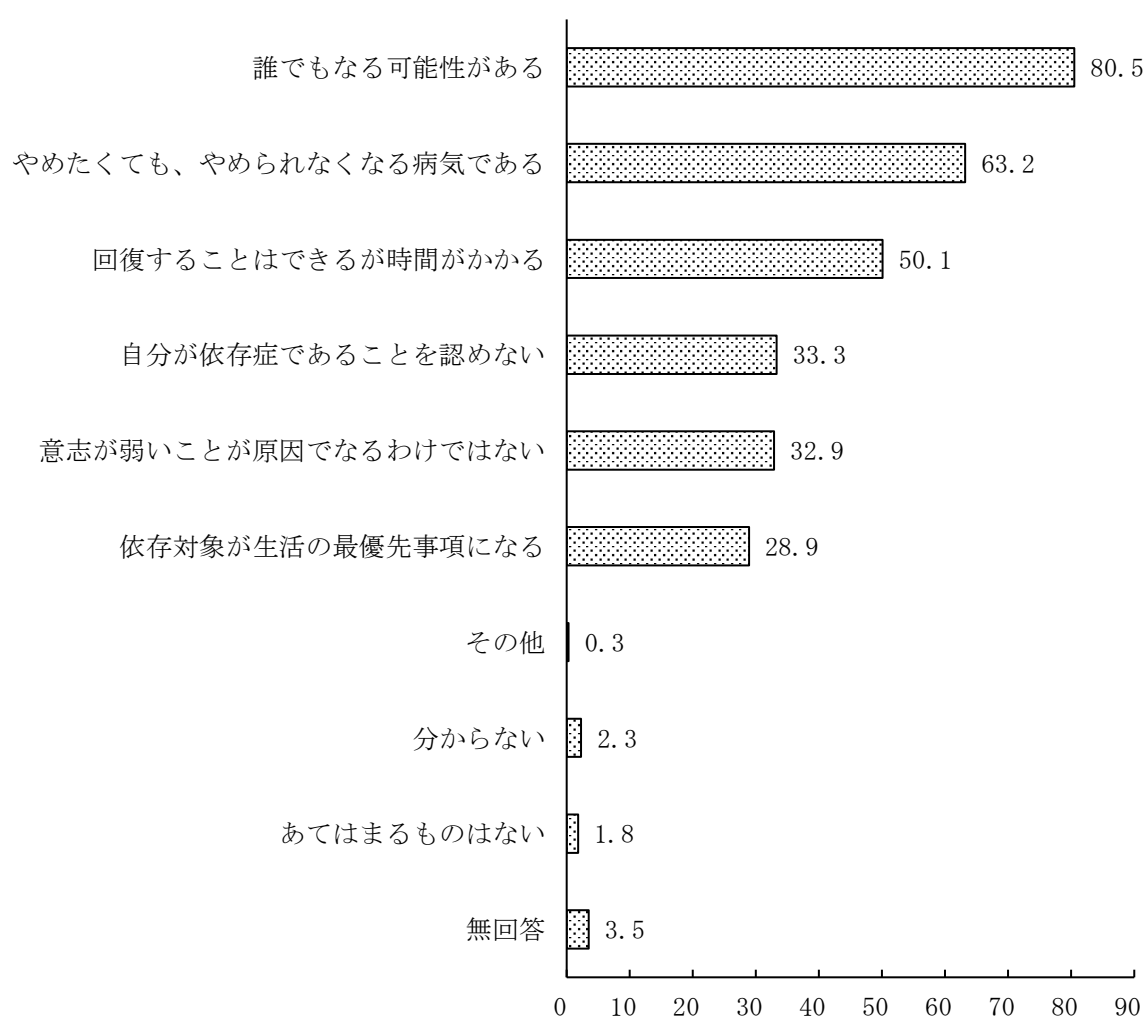
8 依存症に対する意識（問 22～問 23）

県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 22）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 80.5%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 63.2%であった。[図表 8]

図表 8 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,185）（%）



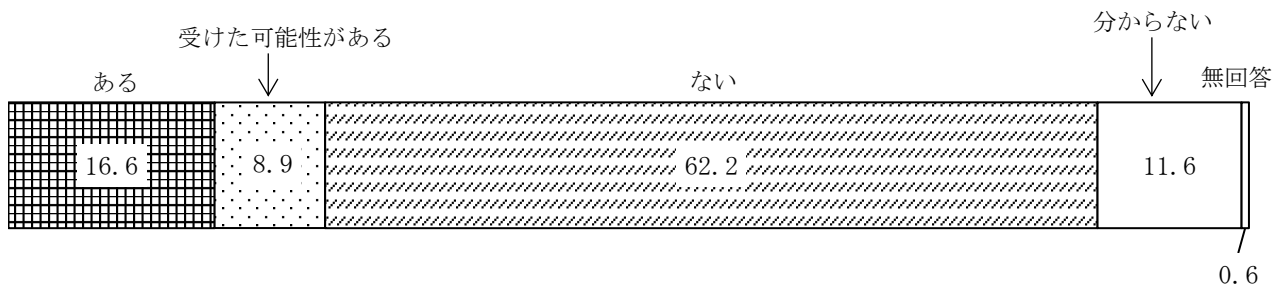
9 肝炎対策（問 24～問 25）

県では、「神奈川県肝炎対策推進計画」を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 25）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 16.6%であった。一方、「ない」が 62.2%であった。〔図表 9〕

図表 9 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,185）（%）



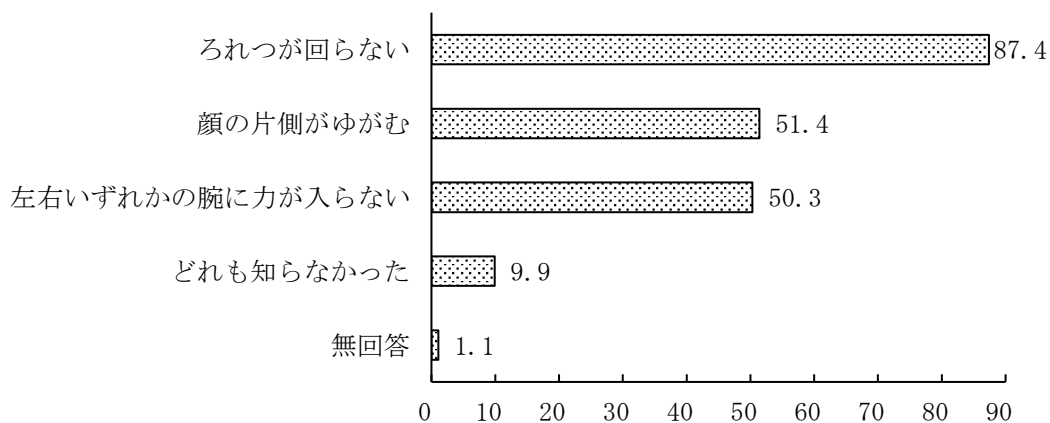
10 循環器病対策（問 26～問 28）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 26）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が 87.4%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が 51.4%であった。〔図表 10〕

図表 10 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,185）（%）



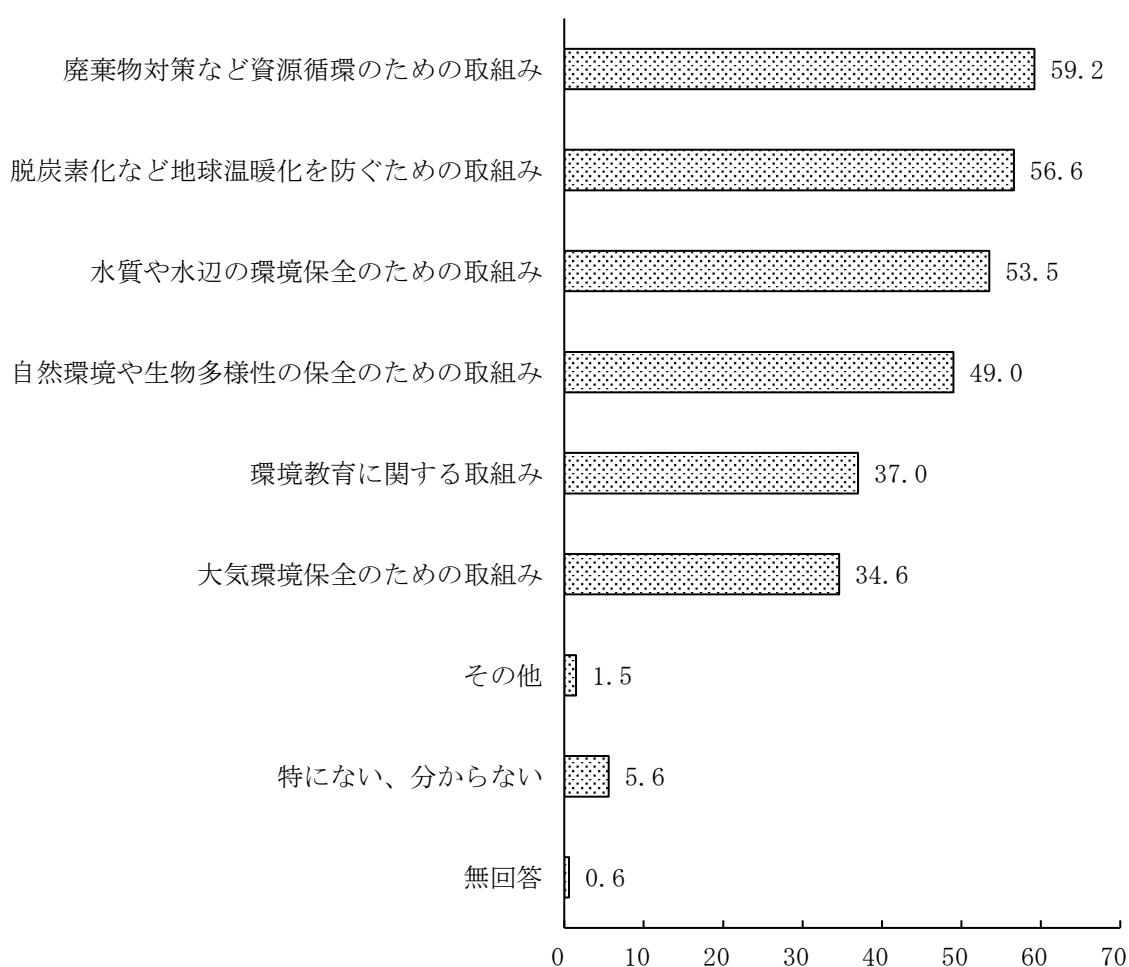
11 脱炭素・環境（問 29～問 32）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問 29）

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいかを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が 59.2%で最も多く、次いで「脱炭素化など地球温暖化を防ぐための取組み」が 56.6%であった。〔図表 11〕

図表 11 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,185）（%）



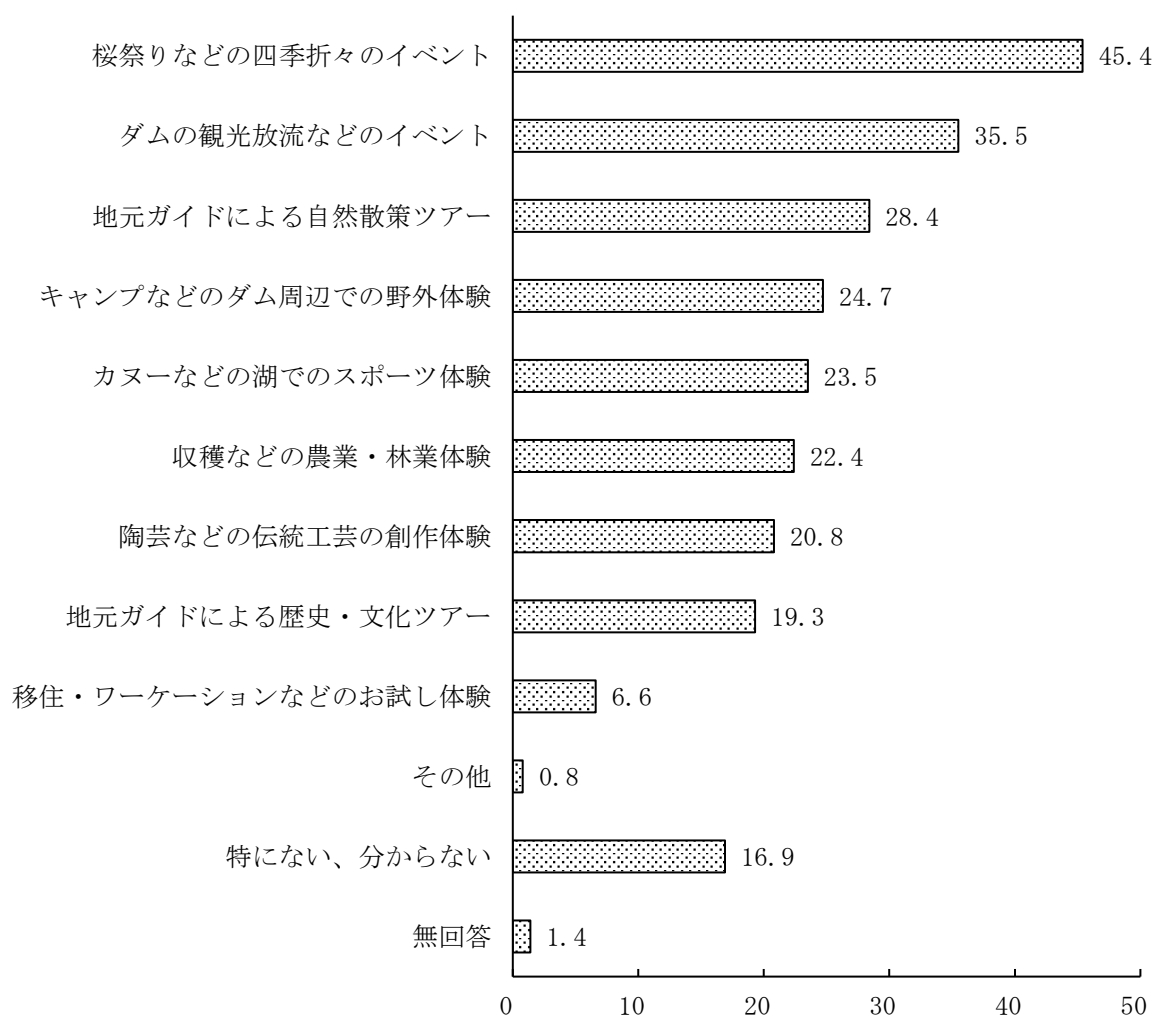
12 かながわの水源地域（問 33～問 35）

県では、水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、水源地域における交流を通じて、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでいます。今回、水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいことについて調査しました。

▼水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと（問 34）

水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいことについて複数回答で尋ねたところ、「桜祭りなどの四季折々のイベント」が 45.4% で最も多く、次いで「ダム観光放流などのイベント」が 35.5% であった。[図表 12]

図表 12 水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと（複数回答）（n=1,185）（%）



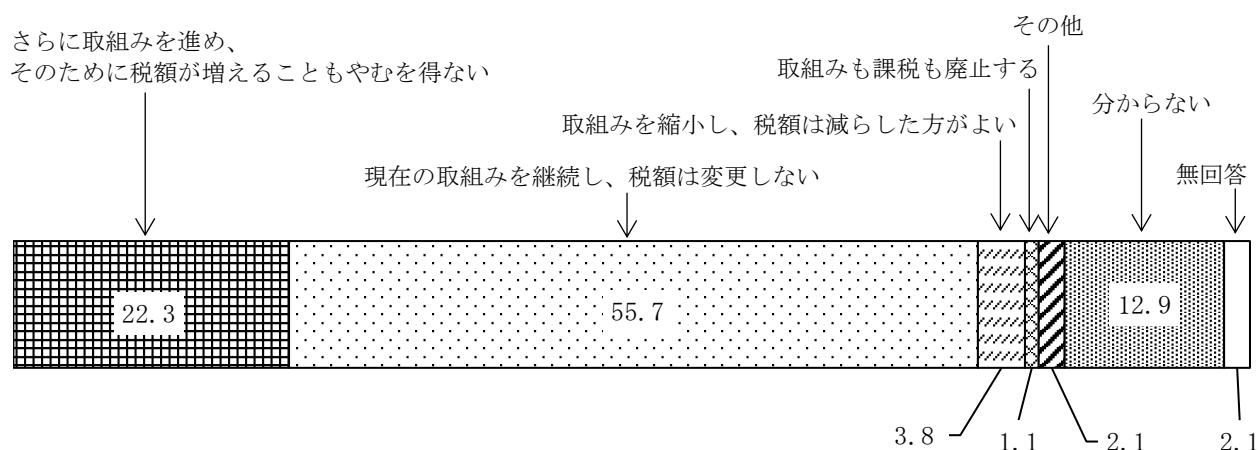
13 水源環境保全・再生の取組み（問 36～問 37）

県では、県民の皆さんに個人県民税の超過課税（水源環境保全税）という特別なご負担（納税者一人当たりの平均負担額は年額約 880 円）をお願いし、水源環境の保全・再生を進めています。今回、水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うかなどについて調査しました。

▼水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか（問 37）

水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「現在の取組みを継続し、税額は変更しない」が 55.7%で最も多く、次いで「さらに取組みを進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」が 22.3%であった。〔図表 13〕

図表 13 水源環境保全・再生の取組みについて、
今後どのようにしたらよいと思うか（n=1,185）（%）



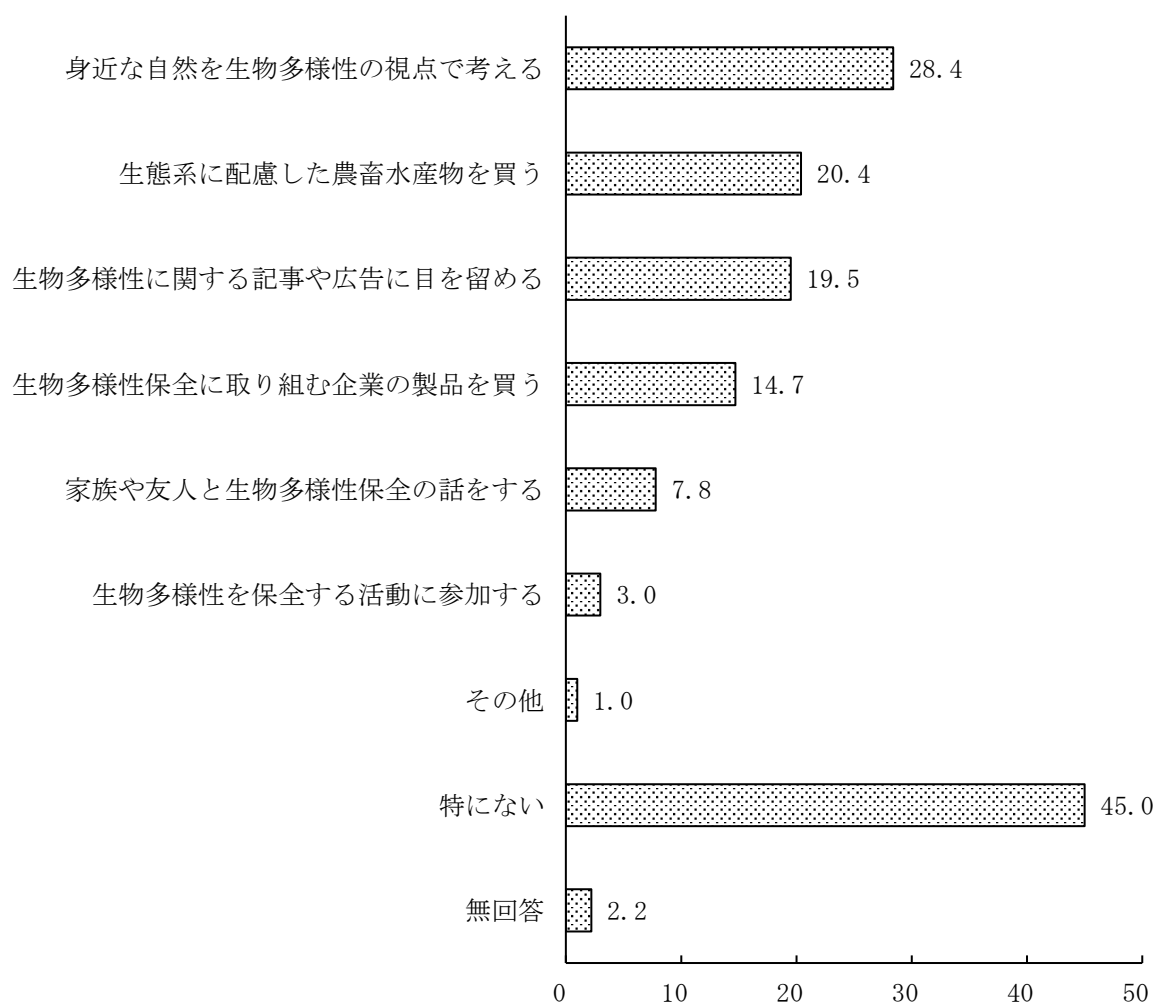
14 生物多様性（問 38～問 40）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 39）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 28.4%で最も多く、次いで「生態系に配慮した農畜水産物を買う」が 20.4%であった。[図表 14]

図表 14 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) (n=1,185) (%)



15 消防団（問 41～問 43）

県では、地域の安全・安心を支える地域防災の要である消防団の充実強化のための取組みを進めています。今回、消防団への入団意向などについて調査しました。

▼消防団への入団意向（問 42）

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない」が 58.8%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が 18.7%であった。〔図表 15〕

図表 15 消防団への入団意向（n=1,185）（%）

